



横浜みどりアップ計画

紅葉の緑区の森を歩く

みどりアップ健康ウォーキング

スタート

ゴール

JR線
〔鴨居駅〕

主催：横浜市環境創造局 みどりアップ推進課
 受託：公益財団法人 横浜市体育協会
 主管：横浜市レクリエーション連合
 主管：特定非営利活動法人日本サーチウォーク協会

紅葉を楽しみながら 緑区の森を歩く

緑区の木である「カエデ」が、紅葉のシーズンを迎え色づき始めました。紅葉を楽しみながら歩きます。

スタート 緑区役所前広場
(JR 中山駅約徒歩5分)

ゴール JR〔鴨居駅〕

所要時間 約3時間
目安

距離 約7.5 km

市民の森／ふれあいの樹林とは…

市民の森は昭和46年からスタートした横浜市独自の緑地を保存する制度。市民の方々に憩いの場を提供し現在47か所(約547ha)を指定。一方ふれあい樹林は市街地の小規模な緑地を保全・育成するもので、市民の方々にふれあいの場を提供、現在14か所/約19.2haあります。(平成31年4月1日現在)

※ともに愛護会の方が園路清掃などの維持管理をしています。

▶ 詳しくは

市民の森ガイドマップ

検索



コースのみどころ

1 四季の森公園プロムナード



横浜市緑区役所から四季の森公園へは、約700メートルのプロムナードが整備されています。道の両脇に大小さまざまな樹木がアーチのようになって植樹され、のんびりと散策を楽しめるようになっています。

また、1000株以上のあじさいが植えられ、緑区のかくれたあじさいスポットとなっています。初夏にはあじさいまつりも開催されます。

2 県立四季の森公園

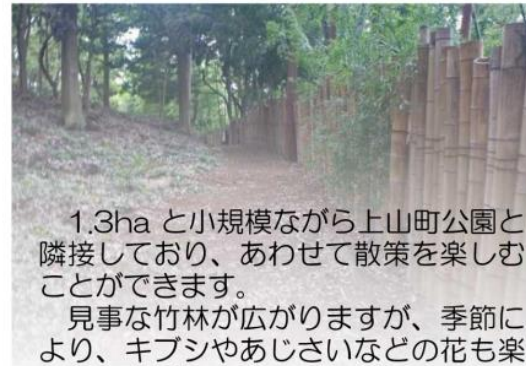


県立四季の森公園は、横浜市の市街地にありながら豊かな里山の自然をそのままに残した公園です。

公園の面積は45.3ha、その広大な森の中に、水田、水車小屋、炭焼小屋など、里の暮らしを伝える施設や、丘陵の起伏を利用した噴水・花壇、展望台、ジャンプすべり台、遊具広場などのレクリエーション施設が配置されています。

早春、キブシの花が咲くと、菜の花、サクラ、ヤブデマリが次々と開き、夏にはホタルやトンボ等の虫たちが姿を見せ、秋は紅葉が園内を美しく彩ります。その名のとおり、一年を通して四季を楽しめます。

3 上山ふれあいの樹林



1.3haと小規模ながら上山町公園と隣接しており、あわせて散策を楽しむことができます。

見事な竹林が広がりますが、季節により、キブシやあじさいなどの花も楽しむことができ、ショウリョウバッタやクロアゲハなどの虫たちと出会うこともあります。

樹林は、「上山ふれあいの樹林愛護会」の方々が管理されています。

4 鴨居原市民の森



北地区では竹林が見られ、よんやま広場まで生き物を観察しながら歩くことができます。

南地区では、入口となっている珍しいハンカチの木が植えられている「ハンカチの木広場」から、ヤマザクラやコナラなどの雑木が茂る林が広がっています。コナラの樹液にはカブトムシ類が集まってきます。また、散策路では大きなアズマヒキガエルやアオダイショウを見かけることもあります。

ここを管理されている「鴨居原市民の森愛護会」は横浜市と協力して、森の維持管理を行うと同時に、自治会及び各種団体、小中学校等と協働し市民が森に親しめる活動を推進されています。

5 「紅葉」「黄葉」の話



◆紅葉・黄葉になるメカニズムとは

秋から冬にかけて夜間の気温が10℃を下回るようになると、葉の葉柄の付根に離層と呼ばれるコルク層が形成されて、葉と茎の間で水や養分の流れ(転流)が妨げられる結果、光合成により作られた糖分が葉に蓄積され、これからアントシアニンと呼ばれる赤い色素が形成されます。

さらに、低温によりクロロフィル(葉緑素)が分解されて消失していく過程で葉の色は緑葉から紅葉へと移り変わります。

一方、クロロフィルが分解されていく過程で、今までは目立たなかった黄色のカロチノイドという色素が目立って現れると、緑葉は黄葉へと移り変わります

美しい紅葉・黄葉が起こる条件としては、「1. 日較差(日中と夜間の気温差)が大きく、明け方の急激な冷え込み、2. 大気の乾燥による土壌水分の減少、3. アントシアニンが形成するために十分な日射がある」の条件が揃うこと、があります。紅葉・黄葉の過程、つまり、離層の形成、糖分の蓄積、植物色素(クロロフィル・カロチノイド)の分解などが促進されて、美しい紅葉・黄葉を作り出すというわけです。

(山口大学農学部 山本晴彦氏)